

**HF BS**  
for  
平成基礎科学財団

# 第5回 「小柴昌俊科学教育賞」

＜最終選考会・表彰式＞

2009年3月22日

於： 東京大学「小柴ホール」

主催： 財団法人 平成基礎科学財団

<http://www.hfbs.or.jp>

ごあいさつ

平成基礎科学財団理事長  
東京大学特別栄誉教授  
小柴 昌俊

平成基礎科学財団は「基礎科学、純粋科学に光をあて、基礎科学の面白さが分かる教育の普及、意欲と夢をもった若者を育てること」を目標に2003年に設立されました。この財団事業のひとつが、“小柴昌俊科学教育賞”の授与による基礎科学教育の振興です。

科学の探究は極めれば極めるほど深奥なものです。科学は意外性に満ちあふれています。基礎科学はその宝庫です。だから面白いのです。この醍醐味を是非、若者たちに体感していただきたい。これが小柴昌俊科学教育賞創設の動機です。「理科教育が危ない」といった今日状況に照らし、基礎科学への興味と関心を高めるため、授業内容・方法、教材・教具等の開発及びその指導法などで、新しい発想と工夫を教育現場に期待したいと考えました。

### 1. 表彰の目的と基準

本賞は児童・生徒の基礎科学への興味と関心を高めるため、新しい発想と工夫に満ちた理科教育プログラムを開発・実践し、理科教育に関し著しい教育効果を上げた団体及び個人に対し贈ります。また、その実践事例に対し助成します。その基準は以下のような事項を目安とします。

- (1)児童・生徒の思考を深め、創意や主体性を促進し、創造性や独創性などを高めるための指導を行っている。
- (2)効果的な教材・教具等を開発し、それらを利用して楽しく、かつ、奥深い授業を実践している。
- (3)授業内容や観察・実験の準備や実施方法などで、教える事柄を工夫している。
- (4)自然科学に対する興味と関心を高め、科学的な能力・態度の育成に重点を置いた良好な学習環境を整備している。

\*ここで理科教育とは幼児教育や小学校、中学校、高等学校に於ける理科、算数・数学に関する教育をいいます。

### 2. 表彰

- |        |                     |    |
|--------|---------------------|----|
| (1)優秀賞 | (賞牌一金メダラー及び副賞100万円) | 1件 |
| (2)奨励賞 | (賞牌一銀メダラー及び副賞50万円)  | 3件 |

### 3. 選考委員

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 朽津 耕三 | 東京大学名誉教授、東京農工大学客員教授              |
| 荒船 次郎 | 平成基礎科学財団評議員、大学評価・学位授与機構 特任教授     |
| 伊藤 正男 | 平成基礎科学財団理事、理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問 |
| 海部 宣男 | 平成基礎科学財団理事、国立天文台名誉教授             |
| 森 裕司  | 平成基礎科学財団理事、東京大学大学院農学生命科学研究科教授    |
| 佐藤 文隆 | 平成基礎科学財団評議員、京都大学名誉教授             |

#### 4. スケジュール

- 10:30 開会  
理事長挨拶
- 10:45～11:05 プレゼンテーション①  
○「刈谷少年発明クラブの活動」  
－学校外理科教育支援活動システムとして－  
－刈谷少年発明クラブ 代表者 桑門 聡
- 34年あまりにわたって、行き届いた指導と設備のもとで小・中学生が、自然科学への興味と知識を自主的にはぐくみ、創意工夫に基づく発明への意欲と知恵を養う環境を提供しているプログラム。
- 11:10～11:30 プレゼンテーション②  
○「北海道・東北地方の中学校での化学実験教室の実施」  
－東京大学教養学部化学部 代表者 田中 成
- 学生の課外サークルの一つである化学部が、50年にわたり続けられてきた伝統と蓄積されたノウハウを受け継いで、教養学部が秋休みになる時期に、同地域の中学を毎年訪問し(半世紀で延べ100校以上)、化学の本質に触れる魅力的な化学実験を学生たちが自主的に計画し準備して、中学生たちに体験させているプログラム。
- 11:35～11:55 プレゼンテーション③  
○「氷作りから始めるふしぎで楽しい氷の実験プログラム」  
－神田 健三(所属:中谷宇吉郎雪の科学館)
- 「中谷宇吉郎雪の科学館」を拠点として、同博士のライフワークであった雪の形と氷の物性について、館内と館外での小学校児童への頻繁な授業をはじめ、中高生と一般市民も対象として、創意に基づいて開発した様々な実験に参加させて、自然の神秘とその仕組みを体験させているプログラム。
- 12:00～12:20 プレゼンテーション④  
○「ナスカの地上絵」の再現」  
－小学生を対象とした比例と相似の学習の可能性－  
－諫見 泰彦(所属:学校法人中村産業学園九州産業大学)
- 多数の小学校を訪問し、児童たちに「地上絵」の原図を与えて、同行する十数名のボランティア大学生の協力のもとに「杭2本と長い紐の組み合わせ」だけを使って、小学生たちが校庭(または体育館)一杯に広がる地上絵を再現させているプログラム。
- 12:30～14:00 休憩 (選考委員は最終選考会議を行います。)
- 14:00～15:00 表彰式  
理事長挨拶
- 15:00 閉会

★お願い

1. 質問は選考委員のみとします。(一般の方の質問はできません。)
2. 撮影は報道関係者のみとし、一般の方の撮影を禁止します。
3. 録音は一切禁止します。
4. 携帯電話の電源はお切りください。